

市は危機管理に重点を置き、監視体制 私たちも自己防衛意識を高め、 万々に備えましょう

REPORTER'S EYE



年末年始のお問い合わせ(12月29日～1月2日、9時～17時)は、西暦2000年問題対策本部事務局 ☎953-1111内線2070・2071へ



【リポーター】
安久津雅子さん(入間川在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

西暦2000年問題は
私たち市民生活の問題です

西暦2000年問題は、日付を西暦の下2桁で管理しているコンピュータが、西暦2000年を迎えたとき、2000年を認識しない1999年12月31日の翌日を1999年1月1日と認識する(など)さまざまな問題が発生することをいいます。市ではこのような事態に対応するため、西暦2000年問題緊急対策チームを事務局に、市長を本部長とする狭山市西暦2000年問題対策本部を設置し、対応を進めています。市は、平成9年から業務すべてのプログラム(住民記録、税金の賦課など)の洗い出しを開始し、今年3月にはプログラムの修正を終了、誤動作が起きないことを確認し、その後市民生活に直結する水道、下水

道ごみ処理、消防・救急、医療などのシステムについて調査を行い、支障がないことを確認しています。現在は、トラブルの発生を想定した「危機管理」に重点を置き、年末年始には緊急電話を設置して対応するなど、障害が発生した場合の事態の收拾に向けて体制を強化しています。私たち市民に対しては、広報紙・インターネットなどで情報を提供し、疑問点などについても西暦2000年問題緊急対策チーム、各担当課で問い合わせに応じてくれています。そして金融・エネルギー・情報通信・交通・医療の重要分野についても各企業などで問い合わせ窓口を設置し、広報さやま11月10日号、6ページを参照していただけます。疑問点対応方法などは確認してください。



越年時の準備を「家庭で」このように市や各企業ではさまざまな面から対応を進めていることが分かりました。では、私たち市民は何をすればよいのでしょうか。事前の情報収集だけでよいのでしょうか。私もインターネットなどで西暦2000年問題がどういうものなのかは知っていても、特別な対応は何もしていませんでした。しかし、11月のある日、もっと真剣に考えなければと思ったのです。その市内で起きた墜落事故による大規模な停電。あのときは、電気がストップしたときの恐ろしさ、もうさういうものを体験しました。テレビはつかない、電話もなかなかつながらない、ラジオには電池が入っていない情報がかめないので、これはいけないと思いました。もっと危機意識を持ち自分で備えられることはできるだけやっておかねばならないと、初めて認識しました。西暦2000年問題、何が起こるか分かりませんが、分らないからこそ、不測の事態に備えよう。3日分の飲料水、火を使わずに食べられる食料、救急箱、常備薬、懐中電灯、ろうそく、ラジオ電池式(そして電池などの用意)ただし、多量の現金の準備は盗難の危険性(あり)や避難場所の再確認など、「災害発生を想定した準備をする」、「私たち一人一人が自己防衛意識を高める」、「自分の生活は自分で守る」といった意識を持ち、準備すべきではないでしょうか。何も起こらなければそれに越したことはありませんが、「備えあれば憂いなし」です。万が一の事態になる前に、皆さんも「自宅の非常用品をもう一度チェックしてみてください。」